2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　Aiロボティクス株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　247A　　ＵＲＬ　https://ai-robotics.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）龍川　誠
問合せ先責任者　（役職名）取締役CFO　　（氏名）坂元　優太　　ＴＥＬ　03-6809-0142

半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益		１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	22,721	－	93	－	△319	－	△534	－	△8.23	－
2026年３月期中間期	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

（注）包括利益　2027年３月期中間期　△517百万円（－%）　2026年３月期中間期　－百万円（－%）

		調整後EBITDA			調整後親会社株主に帰属する中間純利益		調整後１株当たり中間純利益	潜在株式調整後の調整後１株当たり中間純利益
		百万円	%		百万円	%	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期		1,119	－		410	－	6.32	6.30
2026年３月期中間期		－	－		－	－	－	－

（注）１．当社は、2027年３月期中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、2026年３月期中間期の数値及び対前年中間期増減率並びに2027年３月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。
２．2027年３月期中間期の潜在株式調整後１株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、１株当たり中間純損失であるため記載しておりません。
３．調整後EBITDAは、営業利益に減価償却費等、M&Aに伴うのれん等償却費及びM&A関連費用を足し戻して算出しております。
４．調整後親会社株主に帰属する中間純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益にM&Aに伴うのれん等償却費及びM&A関連費用を足し戻して算出しております。
５．M&A関連費用＝ファイナンシャルアドバイザリー費用＋デューディリジェンス費用
６．調整後１株当たり中間純利益は、調整後親会社株主に帰属する中間純利益を、期中平均株式数で除して算出しております。
７．潜在株式調整後の調整後１株当たり中間純利益は、調整後親会社株主に帰属する中間純利益を、潜在株式の権利行使による希薄化を反映した株式数で除して算出しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	50,851	5,579	11.0
2026年３月期	－	－	－

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　5,579百万円　2026年３月期　－百万円
（注）当社は、2027年３月期中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、2026年３月期の数値については記載しておりません。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		調整後EBITDA		調整後当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	52,000	－	6,000	－	8,000	－	4,300	－

（注）１．直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

２．当社は、2027年３月期中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

３．当社は、2026年４月１日付で株式会社ＢＪＣの全株式を取得し完全子会社としました。これに伴い当連結会計年度については、当該M&Aに係る一時的な費用の影響や、のれん等償却費の影響を調整した各調整指標について業績予想値を公表することとしました。

・営業利益＝仮にM&Aに伴うのれん等償却費を1,500百万円としたときの暫定的な数値

・調整後EBITDA＝営業利益＋減価償却費等＋M&Aに伴うのれん等償却費＋M&A関連費用

・調整後当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益＋M&Aに伴うのれん等償却費＋M&A関連費用

・M&A関連費用＝ファイナンシャルアドバイザリー費用＋デューディリジェンス費用

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規　4社　（社名）株式会社ＢＪＣ、株式会社ＣＨＡＲＩＳ＆Ｃｏ.、株式会社ＢＥＥＫ及びＣＨＡＲＩＳ Ｋｏｒｅａ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ.

除外　－社　（社名）－

詳細は、添付資料Ｐ.９「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）」をご覧ください。

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は、添付資料Ｐ.９「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	65,249,000株	2026年３月期	64,900,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	124株	2026年３月期	124株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	65,006,805株	2026年３月期中間期	58,975,688株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ.３「１．経営成績等の概況（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 2
（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況 …… 2
（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記） …… 9
（追加情報の注記） …… 9
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当社は、当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、前中間連結会計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

当中間連結会計期間における我が国経済は、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中東情勢の影響や消費者物価の緩やかな上昇が続いており、消費者マインドの動向には引き続き留意が必要な状況であります。

化粧品・美容関連市場におきましては、ドラッグストアやバラエティーショップにおける化粧品等のビューティケア商品の販売や訪日外国人による買物需要も堅調であります。こうした市場環境を背景に、ドラッグストアやバラエティーショップ等の店頭及びＥＣにおける販売競争は以前に増して激化しており、特に韓国コスメが急速に市場での配荷を拡大しております。我が国政府においても「J-Beauty」を、国を挙げた注力産業分野と位置付ける動きがあり、当社としても国際競争力の強化に取り組んでまいります。

当中間連結会計期間より新たにグループに迎え入れた株式会社ＢＪＣ及びその子会社（以下「ＢＪＣグループ」という。）は、パーツケアコスメブランド「soaddicted」やHARI美容ブランド「SPICARE」を展開し、エステサロンや美容室等のプロフェッショナルチャネルにおいて強固な代理店網と高いブランド力を有しております。当社グループは、従来のオンライン及びリテールチャネルに、ＢＪＣグループのプロフェッショナルチャネルを加えることで、各チャネルを横断した事業基盤の構築を進めております。

従来からの主力スキンケアブランド「Yunth」においては、クッションファンデーションの発売や浸透型美顔器「Deep Boost」の先行販売により商品領域を拡大したほか、人気キャラクターとのコラボレーション商品の展開や、ブランド初となるコンビニエンスストアでの取扱い開始など、顧客接点の拡大に取り組んでおります。

美容家電ブランド「Brighte」においては、サロン監修の美顔ツール「FACE HEART POINTER」を発売したほか、主力の美顔器「ELEKI LIFT」について、ＥＣモール限定のスペシャルセットを展開し、オンライン販売の強化を図りました。さらに、ブランド初のサロン専売モデル「ELEKI LIFT PRO」の順次発売を開始いたしました。今後は、ＢＪＣグループが有するプロフェッショナルチャネルの代理店網を活用し、サロン領域における販売拡大を図ってまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は22,721,693千円、営業利益は93,495千円、経常損失は319,050千円、親会社株主に帰属する中間純損失は534,728千円となりました。

なお、通期の業績につきましては、下期に予定していた新ブランドの発売延期及びヘアケアブランド「Straine」の売上の下振れにより、売上高・営業利益ともに前回予想を下回る見込みとなったため、通期連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日（2026年11月13日）公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

（２）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末における資産合計は50,851,815千円となりました。主な内訳は、現金及び預金9,007,841千円、売掛金5,975,428千円、商品及び貯蔵品10,729,143千円、のれん20,912,978千円であります。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債合計は45,272,072千円となりました。主な内訳は、流動負債のその他に含まれている未払金1,963,423千円、有利子負債41,378,548千円であります。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は5,579,743千円となりました。主な内訳は、資本金881,989千円、資本剰余金878,989千円、利益剰余金3,801,916千円であります。

（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、9,007,841千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは3,197,742千円の支出となりました。これは主に税金等調整前中間純損失

313,179千円、売上債権の減少額2,019,596千円、棚卸資産の増加額3,812,814千円、法人税等の支払額1,219,592千円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは22,667,226千円の支出となりました。これは主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出22,638,468千円、有形固定資産の取得による支出69,810千円、有形固定資産の売却による収入94,201千円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは30,859,590千円の収入となりました。これは主に長期借入金の返済による支出3,053,572千円、社債の償還による支出180,000千円があったものの、短期借入金の純増額33,577,058千円があったことによるものです。

（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、2026年５月13日に公表しました連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2026年11月13日）公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	9,007,841
売掛金	5,975,428
貸倒引当金	△4,697
売掛金（純額）	5,970,731
商品	9,903,212
貯蔵品	825,931
その他	2,678,433
流動資産合計	28,386,150
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	545,914
減価償却累計額及び減損損失累計額	△90,478
建物及び構築物（純額）	455,436
工具、器具及び備品	279,938
減価償却累計額及び減損損失累計額	△134,706
工具、器具及び備品（純額）	145,232
車両運搬具	11,999
減価償却累計額及び減損損失累計額	△4,832
車両運搬具（純額）	7,166
一括償却資産	9,937
リース資産	32,229
減価償却累計額及び減損損失累計額	△18,053
リース資産（純額）	14,175
その他	1,559
有形固定資産合計	633,508
無形固定資産	
のれん	20,912,978
その他	73,863
無形固定資産合計	20,986,841
投資その他の資産	
繰延税金資産	568,022
その他	275,644
投資その他の資産合計	843,666
固定資産合計	22,464,016
繰延資産	
社債発行費	1,648
繰延資産合計	1,648
資産合計	50,851,815

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部	
流動負債	
買掛金	857,942
短期借入金	37,077,058
１年内償還予定の社債	100,000
１年内返済予定の長期借入金	1,070,694
リース債務	6,447
未払法人税等	578,501
株主優待引当金	49,788
その他	2,397,643
流動負債合計	42,138,075
固定負債	
長期借入金	3,115,107
繰延税金負債	9,647
リース債務	9,242
固定負債合計	3,133,996
負債合計	45,272,072
純資産の部	
株主資本	
資本金	881,989
資本剰余金	878,989
利益剰余金	3,801,916
自己株式	△150
株主資本合計	5,562,744
その他の包括利益累計額	
為替換算調整勘定	25,588
繰延ヘッジ損益	△8,792
その他の包括利益累計額合計	16,795
新株予約権	203
純資産合計	5,579,743
負債純資産合計	50,851,815

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （自2026年４月１日 至2026年９月30日）
売上高	22,721,693
売上原価	8,385,397
売上総利益	14,336,296
販売費及び一般管理費	14,242,800
営業利益	93,495
営業外収益	
受取利息	11,005
雑収入	3,554
営業外収益合計	14,559
営業外費用	
支払利息	379,923
その他	47,183
営業外費用合計	427,106
経常損失（△）	△319,050
特別利益	
固定資産売却益	12,468
特別利益合計	12,468
特別損失	
固定資産除却損	6,597
特別損失合計	6,597
税金等調整前中間純損失（△）	△313,179
法人税等合計	221,549
中間純損失（△）	△534,728
親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△534,728

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （自2026年４月１日 至2026年９月30日）
中間純損失（△）	△534,728
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	25,588
繰延ヘッジ損益	△8,792
その他の包括利益合計	16,795
中間包括利益	△517,933
（内訳）	
親会社株主に係る中間包括利益	△517,933

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	当中間連結会計期間 （自2026年４月１日 至2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純損失（△）	△313,179
減価償却費	84,466
のれん償却額	721,137
固定資産売却益	△12,468
貸倒引当金の増減額（△は減少）	1,963
受取利息	△11,005
支払利息	379,923
社債利息	2,012
社債発行費償却	3,288
売上債権の増減額（△は増加）	2,019,596
棚卸資産の増減額（△は増加）	△3,812,814
前渡金の増減額（△は増加）	△65,912
前払費用の増減額（△は増加）	365,121
仕入債務の増減額（△は減少）	△112,892
未払金の増減額（△は減少）	△751,218
未払消費税等の増減額（△は減少）	88,493
未収消費税等の増減額（△は増加）	△318,077
未払法人税等の増減額（△は減少）	△42,905
契約負債の増減額（△は減少）	44,341
株主優待引当金の増減額（△は減少）	39,831
その他	83,078
小計	△1,607,220
利息の受取額	11,005
利息の支払額	△381,935
法人税等の支払額	△1,219,592
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,197,742
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△69,810
有形固定資産の売却による収入	94,201
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△22,638,468
その他	△53,149
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,667,226
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額（△は減少）	33,577,058
長期借入れによる収入	500,000
長期借入金の返済による支出	△3,053,572
社債の償還による支出	△180,000
その他	16,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	30,859,590
現金及び現金同等物に係る換算差額	26,019
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	5,020,640
現金及び現金同等物の期首残高	3,987,201
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,007,841

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）

（連結の範囲の重要な変更）

当中間連結会計期間において、株式会社ＢＪＣの全株式を取得したため、株式会社ＢＪＣ及びその子会社である株式会社ＣＨＡＲＩＳ＆Ｃｏ.、株式会社ＢＥＥＫ、ＣＨＡＲＩＳ Ｋｏｒｅａ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ.を連結の範囲に含めております。

（追加情報の注記）

（中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）

当社は、当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しております。中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりであります。

１．連結の範囲に関する事項

連結子会社の数　　４社

連結子会社の名称　株式会社ＢＪＣ
株式会社ＣＨＡＲＩＳ＆Ｃｏ.
株式会社ＢＥＥＫ
ＣＨＡＲＩＳ Ｋｏｒｅａ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ.

２．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日	
株式会社ＢＪＣ	10月31日	※
株式会社ＣＨＡＲＩＳ＆Ｃｏ.	10月31日	※
株式会社ＢＥＥＫ	10月31日	※
ＣＨＡＲＩＳ Ｋｏｒｅａ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ.	12月31日	※

※　中間連結財務諸表の作成にあたっては、９月30日で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

当社グループは、ブランド事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

なお、当中間連結会計期間より、D2Cブランド事業としておりましたセグメント名称を、株式会社ＢＪＣ、株式会社ＣＨＡＲＩＳ＆Ｃｏ.、株式会社ＢＥＥＫ及びＣＨＡＲＩＳ Ｋｏｒｅａ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ.を連結に含めたことに伴い、ブランド事業に変更いたしました。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。